シティズンシップ教育から見た部活動

部活動改革マップ（P）ver.3

日本シティズンシップ教育フォーラム＋学習院大学長沼研究室　　2020年12月

＜肯定的に考えられる点＞		A生徒	B教師	C学校	D地域
Ⅰ　社会的・道徳的責任を促進する	P⑤道徳性や社会性の発達	・自主運営の中で人とのつながりや助け合いの心を学ぶ機会とする ・そのための目標やルールを自分たちで作る	・社会的マナーを身に着けさせる	・地域とつながりながら、生徒に活動機会を提供する ・勝利至上主義に拠らず、部活動で得られる社会性、道徳性を重視する	・学校とつながりながら、生徒に活動機会を提供する ・部活動指導員として、生徒の道徳性や社会性の育成に関わる
Ⅱ　社会参画を促進する	P②学級とは異なる「居場所」の獲得	・多様な人々やコミュニティーと関わる ・自治活動としての部活動を運営する	・学級以外の居場所を提供する、活躍の機会を与える	・多様な参加機会を提供する（e.g. 兼部を容認する、活動場所を提供する） ・強制参加は廃止する ・強制顧問も廃止する	・多様な参加機会を提供する（e.g. 無料・低価格のクラブなど、活動場所を提供する） ・地域の人々との交流を重視する（生徒が指導的役割を担うことも→地域の一員として認められる）
	P④文化的な市民としての発達機会	・卒業後の活動継続を視野に入れ、持続可能な活動を模索する	・教師が文化的な市民のモデルとなる ・生徒の学外活動を尊重する	・生涯学習の視点を重視する	・指導者、支援者として学校に関わる ・技能や指導経験を持つ人の情報をデータベース化する
Ⅲ　政治的リテラシーを促進する	P①自治と協働の実践	・部活運営目標を議論・決定する ・予算の使い道を決定する ・自分達の作った運営目標をマネジメントしていく	・生徒が成長できるよう、自主的な運営をサポートする ・ファシリテーション力を発揮する	・予算と場所を民主的に配分する ・生徒たちのみで活動できる安全な環境を構築する	・学校の自治活動をサポートする
Ⅳ　アイデンティティと多様性を促進する	P③正課教育とは異なる自己発見	・自分の役割を認識し、他者と協力する	・ほめるといった言葉がけにより自己アイデンティティ向上を促進する	・生徒が悩み事などを相談できる環境を確保する	・地域のイベントに生徒の参加を促す
	P⑥成功体験（勝利）による自己効力感の向上	・生徒同士の連帯感を獲得する ・自身の役割を全うする ・活動の成果発表の場を大会以外にも設ける	・適正な目標設定を促進する ・生徒が役割を全うするためのサポートをする ・活動自体の楽しさに気づかせる ・勝利以外の成功を体験させる	・成功体験を勝利以外にも拡大する ・広報、ホームページを通じて活動内容を披露する	・生徒の活動に地域の人々が参加する ・成功体験の多様なバリエーションを認識する ・強豪への期待をやめる

シティズンシップ教育から見た部活動

部活動改革マップ（N）ver.3

日本シティズンシップ教育フォーラム＋学習院大学長沼研究室　　2020年12月

＜否定的に考えられる点＞		A生徒	B教師	C学校	D地域
Ⅰ　社会的・道徳的責任を阻害する	N④暴力の文化の伝達機会	・学校をこえて生徒（部長など）が交流する機会をつくる ・相談機関を知る（把握する）	・ガイドラインを確認して接し方、コミュニケーションのとり方を見直す ・生徒指導観を変える	・「指導ありき」の体制を改める ・カウンセラーなど相談体制を充実させる	・教育委員会や民間の相談窓口などを充実させ、周知をはかる ・暴力を是認する社会の価置観を変える
Ⅱ　社会参画を阻害する	N②共同体による抑圧（一つ目と関係して）	・大人の話を鵜呑みにしない ・部活欠席を恐れない	・自分の担当する部の部員に民主的な運営（部員主体でルールを決めるなど）を促す ・他の部の顧問に活動日数、時間を増やすように圧力をかけない	・生徒と教員に部活加入を強制しない ・連盟への参加を強制しない ・部活を学校から切り離す ・行事への手伝い・参加を強制しない	・部活に地域のイベント参加を強制しない ・生徒にとってよくない（体を壊すような）部活の練習を美化した報道をしない
	N⑥他の体験をする時間の喪失あるいは著しい減少	・部活以外にもやりたいことを見つけ、主体的に参加する	・休養日を設ける ・生徒が部活以外の体験をすることを推奨する ・教師自身が色々な体験をする	・学校の目的を見直し、本来自由な放課後に干渉しない ・他の学校の部活に入れるようにする ・兼部が認められるようにする ・大学のサークルと連携する ・任意加入を徹底する ・進学に影響するという不安を払拭する ・定期的に継続届けを提出させ、意思を確認する ・地域活動など色々な体験を提供する	・部活以外の活動の受け皿をふやす
Ⅲ　政治的リテラシーを阻害する	N①封建制の正当化	・顧問や部長、先輩に部活の運営について積極的に意見を言う	・可能な範囲で生徒に話し合わせ運営（ルールや練習計画など）を考えさせる	・部活動の成績で校務分掌を変えない（職員間の封建制を見直す）	・部内の過度な上下関係を容認しない
	N⑤「精神論」の跋扈（ばっこ）	・部の規範や部で決めた方向性に対して批判的精神を持つ ・意思表示を明確にする	・「がんばれ」「努力」ですべてを片付けない ・”顧問”に徹する	・「生徒のため」といって教師に顧問を強制させるような環境を放置しない	・外部コーチ、保護者など外部の目を入れる
Ⅳ　アイデンティティと多様性を阻害する	N⑦ジェンダー再生産の機能	・「男子なのに文化部はカッコ悪い」というような考え方をやめる	・伝統的な性規範を支持する言動をしない	・「マネージャー＝女子」「サッカー部＝男子」など、性別による選択肢を固定化しない	・「女の子なのにサッカー部は変よ」など言わない
	N③「強い＝偉い／良い」という認識の形成	・入っている部活や部活の成績だけで人を判断しない	・勝利以外の喜びを示す ・上手な生徒をひいきしない	・特定の部活を差別（ひいき）しない ・成績などによって部費が偏らないようにする ・部活成績による入試を減らす ・学校が部活の活動や成績を持ち上げすぎない	・駅でのたれ幕、モデルケースの入れ替え、部活コンサルなど、部活を持ち上げすぎない

【作成の経緯】部活動改革マップは日本シティズンシップ教育フォーラム（J-CEF）と学習院大学長沼研究室が共同で開発

（１）J-CEF スタディ・スタヂオKOBE vol.33「シティズンシップ教育から『部活動』を考えてみる」
2018年6月20日（ファシリテーター：川中大輔）
シティズンシップ教育から見た部活動の肯定的な面と否定的な面を出し合い（15項目）

（２）J-CEF シティズンシップ教育人材養成 連続講座第2回「学校とシティズンシップ教育 ～部活動から考えよう～」
2018年9月23日（ファシリテーター：古野香織）
それらを解決するためにＡＢＣＤの各々は何をすべきかを検討（Ｐ①～④とＮ①の5項目）

（３）学習院大学長沼研究室　第4回部活動のあり方を考えるミニ集会「部活動改革マップを完成させよう」
2018年12月16日（ファシリテーター：由井一成）J-CEF共催
残りの１０項目を策定し完成 ⇒ver.1

（４）学習院大学長沼研究室　第5回部活動のあり方を考えるミニ集会「部活動改革マップを完成させよう」
2019年11月4日（ファシリテーター：由井一成）J-CEF共催
新たに策定 ⇒ver.2

（５）学習院大学長沼研究室にて
2020年8月31日
15項目をAjegbo報告の４要素で分類、ver.2をver.1に統合して策定 ⇒ver.2.1

（６）J-CEFと学習院大学長沼研究室の共同、（４）の運営スタッフによる研究協議会
2020年12月1日
全項目について精査を行い全体の統一感の視点から再策定　⇒ver.3